

えの木保育園の誕生について

此の事について現在までの経過を記事にして紹介致します。

想いは、昭和 36 年頃高度経済成長に伴う負担は大人に及ぼす影響が、そのまま子供たちにも降りかかりました。

その頃、三ちゃん農業と云われ、お爺ちゃん、お婆ちゃん、お母さんの手によって農業が行われていました。

農繁期になりますと、幼児の事故が次々と発生致しまして、当部落でも 6 人の幼い尊い命が失われてしまいました。半狂乱になり泣き叫ぶ母の姿を見た時、このような事態を守ってあげるのは大人の責任だと思いました。

そして、昭和 41 年に漸く季節保育所を開所致しまして、小学校の図書室を借りて午睡の時は教員住宅を開放して頂きました。

其の後、民家の空き家を利用したり、教員住宅を使用したり最後には集会所で保育していましたが、水飲み場、トイレの不備等一方ならぬ心配致しました。

昭和 45 年減反政策のため、現在の敷地を永年転作として松苗を植えていましたが、昭和 51 年地主の了解のもとに整地致しまして、昭和 57 年 4 月 1 日よりスタートして現在に至っています。

児童福祉法という温かい法に包まれてのびのびと健やかに保育されている子供たちを見るにつけ万感胸に迫りくる思いが致します。

今後、社会福祉の為に、職員共々心一つにして歩んで参りたい所存です。

この恵まれた環境の中で、自然の美しさに囲まれて次の世代を継承して行く子供たちが明るく素直に、そして、強く正しく成長して行く事を念願している次第です。

以上

創設者 大沢 小枝